

# NT 工法〈薄型大判タイル接着剤張り工法〉

タイル厚6mm程度の薄型大判タイルを接着剤で施工する方法です。  
3つの工法から、施工部位(屋内壁・屋外壁)、下地条件によって最適なものを選んで施工することが可能です。

## 適用タイル

- 適用タイルは、長辺 3,200mm 程度以下、厚さ 3 ～ 7mm 程度の薄型タイルとします。
- ※グラスファイバーネット類で裏面補強したタイルは、屋外への施工はできません。

## タイル発注前の確認

- 事前に施工図の作成および現場調査を行い、タイル施工方法の設定、注意事項の確認を行ってください。
- 事前にタイルの寸法を確認してください。輸入品の薄型大判タイルは標準寸法と異なる場合があります。
- 薄型大判タイルの施工は、現場状況や足場等の事前確認、搬入経路、タイルや工具の保管場所、タイルカットなどをする加工スペースの確保が必要です。
- 他の工事がタイル施工に支障がない計画としてください。
- 躯体のひび割れ誘発目地、打継ぎ目地、構造スリット、エキスパンションジョイント、モルタル下地の伸縮調整目地、ボード類の伸縮調整目地を跨いでのタイル施工はできません。
- タイル目地、伸縮調整目地などはシーリング材を使用してください。
- 建物外部は原則として高さ 13m 以下 (3 階程度の高さ) の壁部としますが、下地状況、タイル仕様、施工方法、風圧力、地震力を考慮して判断してください。
- 建物内部は高さ 3m 未満の壁部とします。3m を超える高さは屋内であっても屋外壁と同様の使用部位とし、安全性などを確認した上で判断してください。また、ボード類を使用する場合、最大高さ 5m 以下としてください。

## 下地について

- コンクリート下地の不陸精度は 3m に対し  $\pm 2\text{mm}$  以下としてください。不陸があった場合は、躯体を超高圧洗浄し、既調合ポリマーセメントモルタルで下地調整してください。
- ボード下地の留め付け状況に問題が無いこと、ボード間に段差が無いことを確認してください。下地の不陸精度は 3m に対し  $\pm 2\text{mm}$  以下としてください。両面テープ併用部分接着工法の場合は、張り代が約 1mm のため、より精度の高い下地に仕上げてください。

## タイル張りについて

- タイルを張付ける前に、タイルの施工部位、下地状態、張り代により接着剤塗布方法等の条件を選定してください。
- 薄型大判タイルは張付け後の塗布状態の確認ができないため、小形のカットサンプル等を使用し、事前に接着剤塗布条件を設定してください。また、設定した張り代まで圧縮した場合の接着剤の広がり幅を確認してください。
- 施工前にタイルを仮並べし、色合い、バランスを確認してください。
- タイルの張付け前にタイル裏面の埃、アルミナ、傷防止緩衝材等を除去してください。
- 接着剤の塗布後、タイルを張付ける前に、事前に設定した接着剤の塗布条件で接着剤が塗布されているか確認してください。
- 現場に合わせたタイルのカット加工(工場加工推奨)および緊結金具加工(リベット加工等)を行ってください。(P.916 大形タイル部分接着剤張り工法参照)
- タイル破損時の補修ができないため、衝撃を与えないよう十分注意して作業してください。

※施工方法の詳細は施工マニュアルをご参照ください。

## 1. 全面接着工法

### 施工条件

施工部位：建築物の屋外および屋内の壁面

下地：【屋外壁】コンクリート、モルタル  
【屋内壁】ボード類／石膏ボード (9.5mm 厚以上・2 枚張り)、合板 (I 類 9.5mm 厚以上・2 枚張り)、ケイカル板 (2 枚張り)、フレキシブルボード (2 枚張り)、ガラス繊維ネット入りセメント板

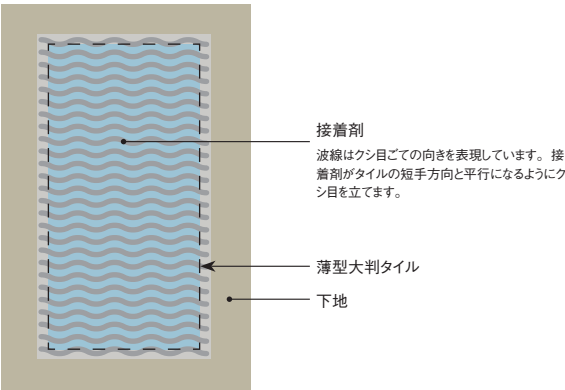
接着剤：【屋外壁】フレックスマルチ、フレックスマルチ F (タイルメント)  
【屋内壁】スーパーダインⅡインテリア

工具：バキュームリフター、クシ目こて (10・15mm)、振動工具、ヘラ

### 接着剤の塗布

1. タイル施工位置を墨出しします。
2. 接着剤がタイルの短手方向と平行になるように、クシ目こてで下地に接着剤を塗布してください。
3. クシ目こての平坦部で、接着剤を下地に平坦に塗りつけた後、塗り厚を確保するため壁面に対してこてを設定した角度に保ってしっかりクシ目を立ててください。クシ目がきれいに立っていない箇所は再度接着剤を塗布し、塗り付け高さを均一にしてください。
4. 張り代 (3 ～ 7mm) に応じた塗布厚としてください。
5. 接着剤は、タイルサイズより 50 ～ 100mm 程度広くなるように、下地に塗ってください。

〈接着剤 塗布例〉



### タイルの張付け

1. バキュームリフターを使用しタイルを運搬します。
2. タイルを受金物または支持材に載せ、正確に位置決めします。
3. タイル裏面に空気だまりできないように、タイルを反らせず垂直に設置してください。
4. タイル裏面に空気だまりができないように、振動工具 (ビブラート) で設定した張り代まで接着剤をよく馴染ませながら圧着してください。
5. タイル端部の隙間を埋めながら、ヘラではみ出た接着剤をかき取ってください。
6. タイル表面に付着した接着剤を除去してください。
7. 上段に施工するタイルは、下段タイル上部に適切なスペーサーや受金物を置き、積上げ張りしてください。
8. タイル表面に付着した接着剤を除去してください。

## 2. 部分接着工法

### 施工部位

施工部位：屋内の人や物の衝突が想定されない壁面

下地：ボード類／石膏ボード（9.5mm 厚以上・2 枚張り）、  
合板（I 類 9.5mm 厚以上・2 枚張り）、ケイカル板（2 枚張り）、  
フレキシブルボード（2 枚張り）、ガラス繊維ネット入りセメント板  
コンクリート、モルタル

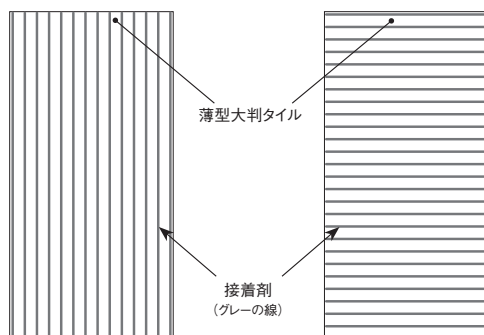
接着剤：スーパーダインⅡインテリア

工具：バキュームリフター、ソーセージガン（タイルメント）、振動工具、  
ヘラ

### 接着剤の塗布

1. タイル施工位置を墨出しします。
2. ソーセージガンで接着剤を下地にピード塗布します。
3. 張り代（3～7mm）に応じた塗布厚・幅（9～13.5mm）としてください。
4. ピードの塗布間隔は 100mm 程度以下とし、均等間隔になるように塗布してください。

〈接着剤 ピード塗布例〉



### タイルの張付け

1. バキュームリフターを使用しタイルを運搬します。
2. タイルを受金物または支持材に載せ、正確に位置決めします。
3. タイルの張付けは、タイルを揉み込んだ後、設定した張り代まで振動工具で接着剤をよく馴染ませながら圧着してください。
4. タイル外周の隙間を埋めながら、ヘラではみ出た接着剤をかき取ってください。
5. 上段に施工するタイルは、下段タイル上部に適切なスペーサーや受金物を置き、積上げ張りしてください。
6. タイル表面に付着した接着剤を除去してください。

## 3. 両面テープ併用部分接着工法

### 施工部位

施工部位：屋内の人や物の衝突が想定されない壁面

下地：ボード類／石膏ボード（9.5mm 厚以上・2 枚張り）、  
合板（I 類 9.5mm 厚以上・2 枚張り）、ケイカル板（2 枚張り）、  
フレキシブルボード（2 枚張り）、ガラス繊維ネット入りセメント板

両面テープ：ボードタック（タイルメント）

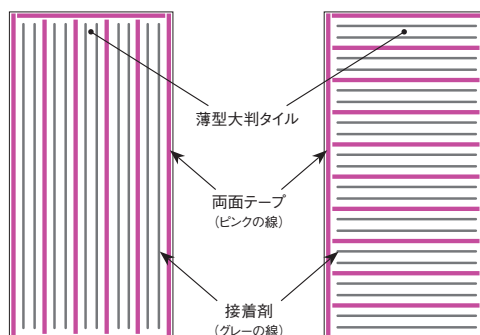
接着剤：スーパーダインⅡインテリア

工具：バキュームリフター、ソーセージガン（タイルメント）、振動工具

### 両面テープの張付けおよび接着剤の塗布

1. タイル施工位置を墨出しします。
2. 両面テープをタイルの外周より10mm 内側に貼り、その内側に150～250mm 間隔で重ならないように貼ります。（離型紙はタイルの張付けまで剥がさないでください。）
3. 両面テープの間に接着剤ピード塗布します。ソーセージガンを使用し、8mm 程度の厚さ・幅になるように均等にピード線を 2 本引きます。

〈両面テープ・接着剤例〉



### タイルの張付け

1. 両面テープの離型紙を剥がします。
2. バキュームリフターを使用しタイルを運搬します。
3. タイルを受金物または支持材に載せ、正確に位置決めします。
4. タイルを接着剤部に当たるように設置します。  
※タイルが両面テープに触れないように設置してください。
5. タイルの張付けは、タイルを揉み込んだ後、タイルが両面テープに接着するまで振動工具で接着剤をよく馴染ませながら圧着してください。
6. 上段に施工するタイルは、下段タイル上部に適切なスペーサーや受金物を置き、積上げ張りしてください。
7. タイル表面に付着した接着剤を除去してください。